

大分県長期漁海況予報

〔令和6(2024)年8月～12月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部
879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

Phone 0972-32-2155 Fax. 0972-32-2156 <https://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

海況経過<令和6年4月～令和6年7月>

■黒潮

- ・都井岬沖では、3月～4月は「著しく離岸」、5月～6月は「接岸」～「やや離岸」、7月は「かなり離岸」で推移しました。
- ・足摺岬沖では、3月は「著しく離岸」、4月～5月中旬は「やや離岸」～「著しく離岸」、その後は「接岸」で推移しました。
- ・A型流路(大蛇行)が継続しました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、4月は「やや高め」、5月、6月は「平年並」で推移しました。(図1)。

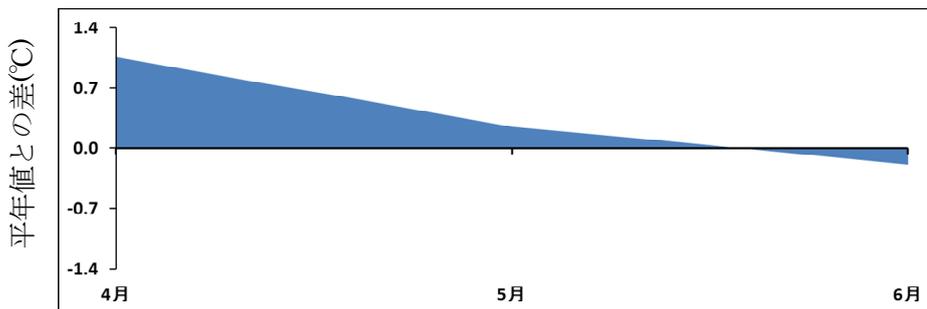


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、「平年並」で推移しました(図2)。

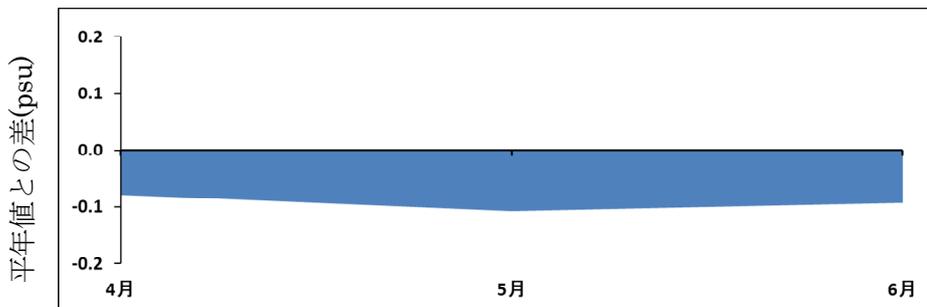


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

今後の海況の見通し<令和6年8月～12月>

■黒潮

- ・都井岬沖では、9月まで離岸傾向で推移し、その後接岸傾向となるでしょう。
- ・足摺岬沖では、離岸傾向で推移するものの、一時的に接岸傾向となるでしょう。
- ・黒潮はA型基調で推移し、大蛇行が継続する可能性が高いでしょう。

■沿岸水温

沿岸水温は「平年並」～「高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は、2024年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県:2024)を参考にしました。
- ・沿岸水温は、2024年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報と、福岡管区気象台の「九州北部地方3か月予報」(2024年7月23日発表)を参考にしました(沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられているため)。

8月 「低め10%、平年並30%、高め60%」

9月 「低め10%、平年並40%、高め50%」

10月 「低め10%、平年並40%、高め50%」

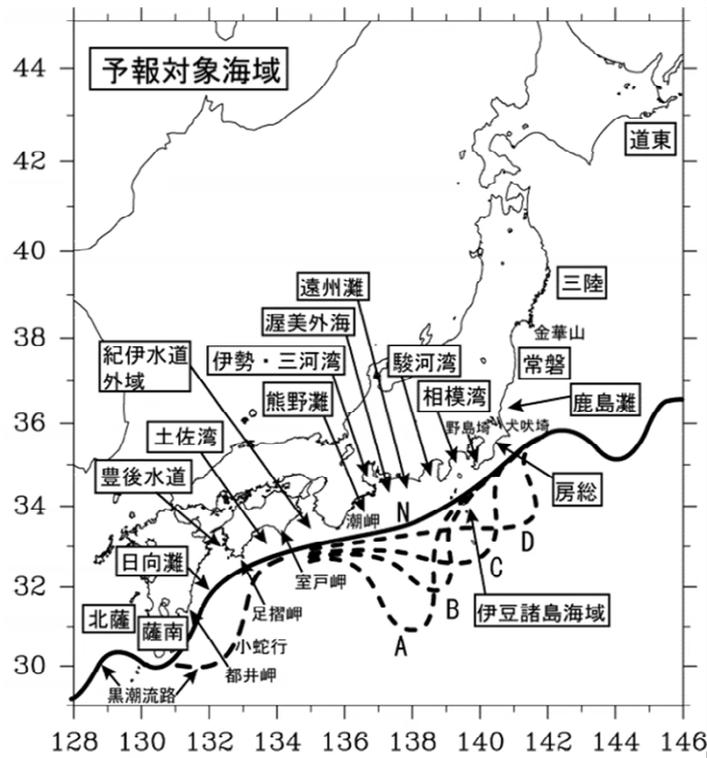


図3 黒潮流型の分類

※上図は太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報
(水産研究・教育機構プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

□2024年4月～6月の漁況経過

2024年4月～6月における豊後水道南部主要3港（鶴見、米水津、蒲江）のまき網によるマイワシの水揚量は197トン（前年同期1トン）で、平年比6.2%（1986年～2023年の平年値）と、前年を上回り、平年を下回りました。水揚げの主体は被鱗体長^{（用語解説①）}6.0cm～10.0cm前後の2024年級群（0歳魚）であり、6月には15.5cm前後の2023年級群（1歳魚）も漁獲されました。

なお、近隣海域^{（用語解説②）}では、宮崎県では前年の26%、愛媛県では前年の3%、高知県では前年の816%の水揚量となっています（宮崎県、高知県は1月～6月、愛媛県は4月～6月の前年比）。

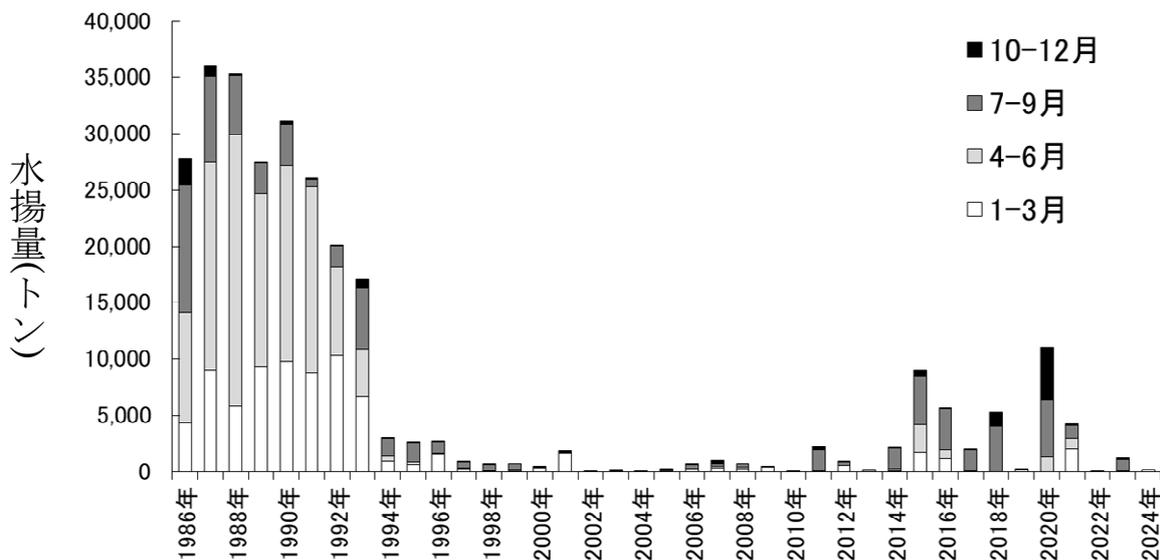


図4 まき網によるマイワシの水揚量（鶴見・米水津・蒲江支店）

今後の見通し<2024年8月～12月>

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は、**前年を上回る**でしょう。（2023年8月～12月：604トン）

水揚げ対象年級群および体長:

被鱗体長12cm～18cm前後の2024年級群（0歳魚）主体となるでしょう。

【説明】

予測期間中は2024年級群（0歳魚）と2023年級群（1歳魚）が水揚げの主体となるでしょう。2024年級群が水揚げの主体であった4月～6月のまき網水揚量が前年同期を上回ったことから、来遊水準は前年を上回ると予測しました。

■カタクチイワシ(成魚)

□2024年4月～6月の漁況経過

2024年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの水揚量は74トンで、前年比198%、平年比12%(1986年～2023年の平均値)と、前年を上回り、平年を下回りました。水揚げの主体は被鱗体長6.0cm～12.0cm前後の2024年級群(0歳魚)と2023年級群(1歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の58%、愛媛県では前年の181%、高知県では前年の378%の水揚量となっています(宮崎県、高知県は1月～6月、愛媛県は4月～6月の前年比)。

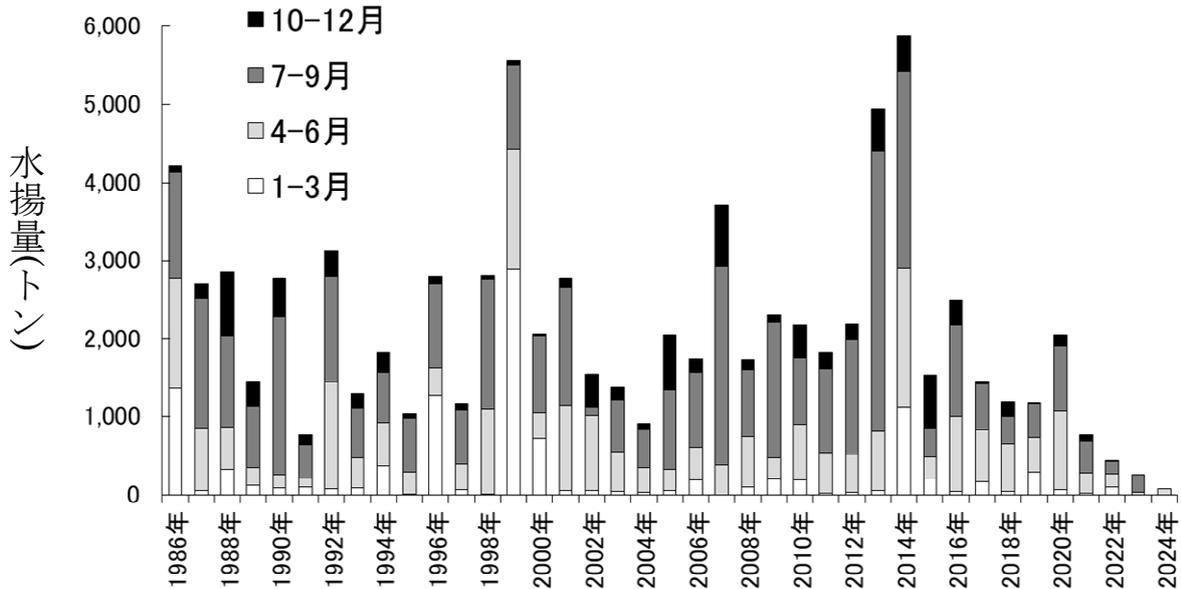


図5 まき網によるカタクチイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2024年8月～12月>

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2023年8月～12月:208トン)

水揚対象年級群および体長:

被鱗体長5cm～10cm前後の2024年級群(0歳魚)主体に2023年級群(1歳魚)が混じるでしょう。

【説明】

2024年級群(0歳魚)が水揚げの主体であった4月～6月の水揚量は前年同期を上回りました。予測期間前半はマイワシやウルメイワシに混じって漁獲されることがあるため水揚量に反映されない可能性があります。来遊水準は前年を上回ると予測しました。

■ウルメイワシ

□2024年4月～6月の漁況経過

2024年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの水揚量は360トンで、前年比298%、平年比174%(1986年～2023年の平均値)と、前年・平年を上回りました。水揚げの主体は被鱗体長5.0cm～21.5cm前後の2024年級群(0歳魚)と2023年級群(1歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の127%、愛媛県では前年の61%、高知県では前年の87%の水揚量となっています(宮崎県、高知県は1月～6月、愛媛県は4月～6月の前年比)。

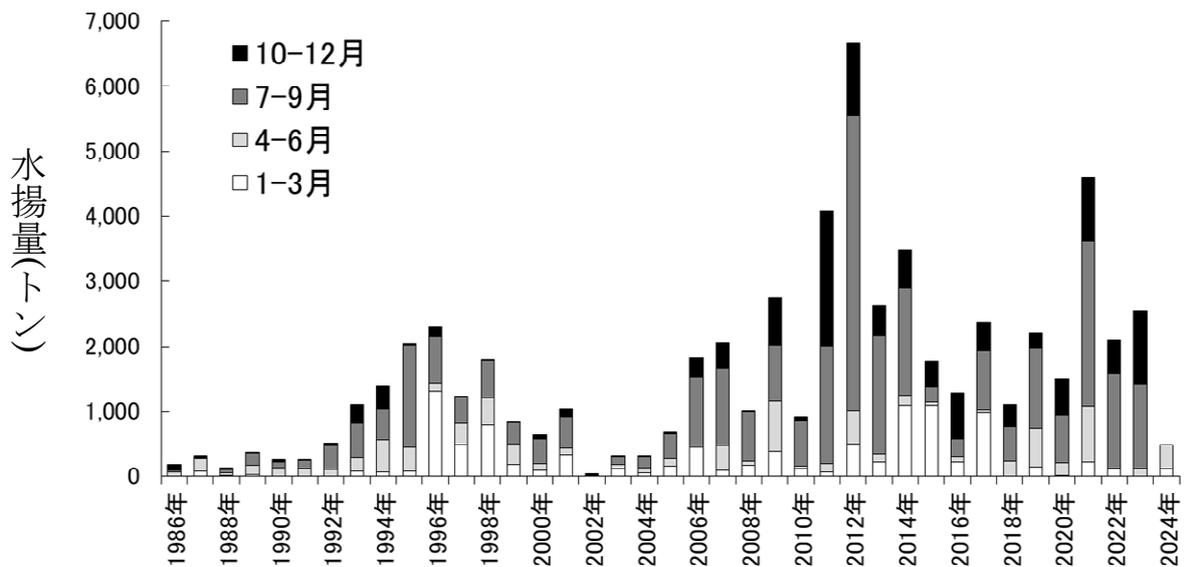


図6 まき網によるウルメイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2024年8月～12月>

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は前年を上回るでしょう。(2023年8月～12月:2,009トン)

水揚対象年級群および体長:

被鱗体長10cm～20cm前後の2024年級群(0歳魚)が水揚げの主体となるでしょう。

【説明】

予測期間中は2024年級群(0歳魚)が水揚げの主体となるでしょう。2024年級群が水揚げの主体であった4月～6月のまき網水揚量が前年を上回ったことから、来遊水準は前年を上回ると予測しました。

■マアジ

□2024年4月～6月の漁況経過

2024年4月～6月における豊後水道南部主要3港（鶴見、米水津、蒲江）のまき網によるマアジの水揚量は253トンで、前年比124%、平年比54%（1986年～2023年の平均値）と前年を上回り、平年を下回りました。水揚げの主体は、4月は尾叉長^{（用語解説③）}15.0cm前後の2023年級群（1歳魚）、5月は尾叉長15.0cm前後の2023年級群（1歳魚）と10.0cm前後の2024年級群（0歳魚）、6月は10.0cm前後の2024年級群（0歳魚）と15.0cm～20.0cm前後の2023年級群（1歳魚）でした。

なお、宮崎県では前年の57%、愛媛県では前年の50%、高知県では銘柄「あじ」が前年の123%で、銘柄「ぜんご」が前年の204%の水揚量となっています（宮崎県、高知県は1月～6月、愛媛県は4月～6月の前年比）。

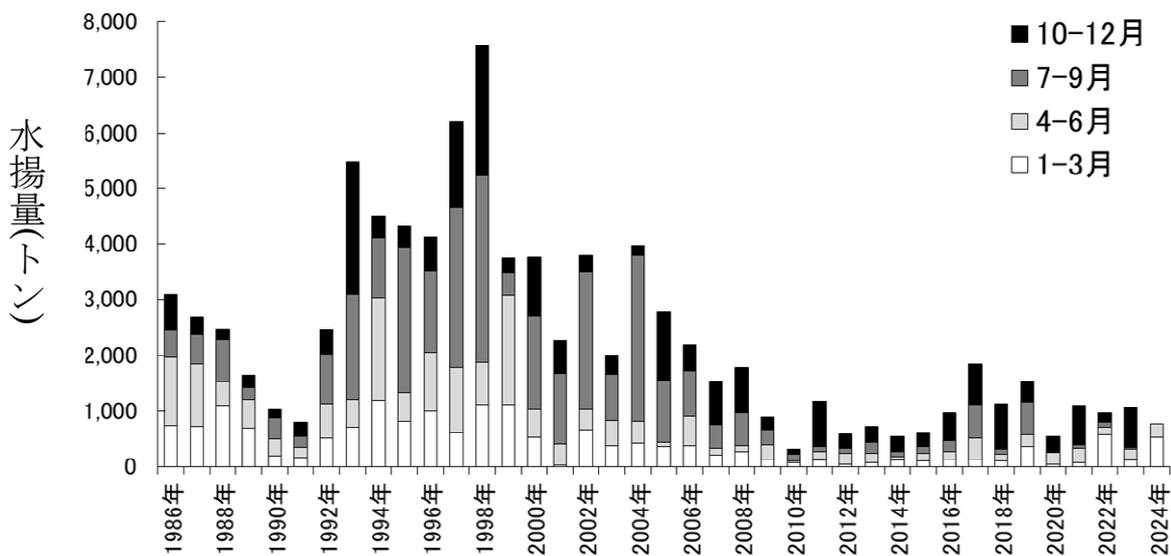


図8 まき網によるマアジの水揚量（鶴見・米水津・蒲江支店）

今後の見通し<2024年8月～12月>

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は前年並～上回るでしょう。（2023年8月～12月：745トン）

水揚対象年級群及び体長:

尾叉長10～15cm前後の2024年級群（0歳魚）が主体となるでしょう。

【説明】

予測期間中、水揚げの主体になるのは2024年級群（0歳魚）となる見込みです。2023年級群と2024年級群が水揚げの主体であった4月～6月のまき網水揚量は前年を上回りましたが、2023年10月～12月は近年でも好調な漁でした。これらのことから、来遊水準は前年並～上回ると予測しました。

■サバ類

□2024年4月～6月の漁況経過

2024年4月～6月における豊後水道南部主要3港（鶴見、米水津、蒲江）のまき網によるサバ類の水揚量は20トンで、前年比1%、平年比2%（1986年～2023年の平均値）と、前年・平年を下回りました。4月、5月の水揚げの主体は2022～2023年級群（1～2歳魚）のマサバでした。6月の水揚げの主体はゴマサバでした。

なお、宮崎県では前年の7%、愛媛県では前年の2%、高知県では前年の52%の水揚量となっています（宮崎県、高知県は1月～6月、愛媛県は4月～6月の前年比）。

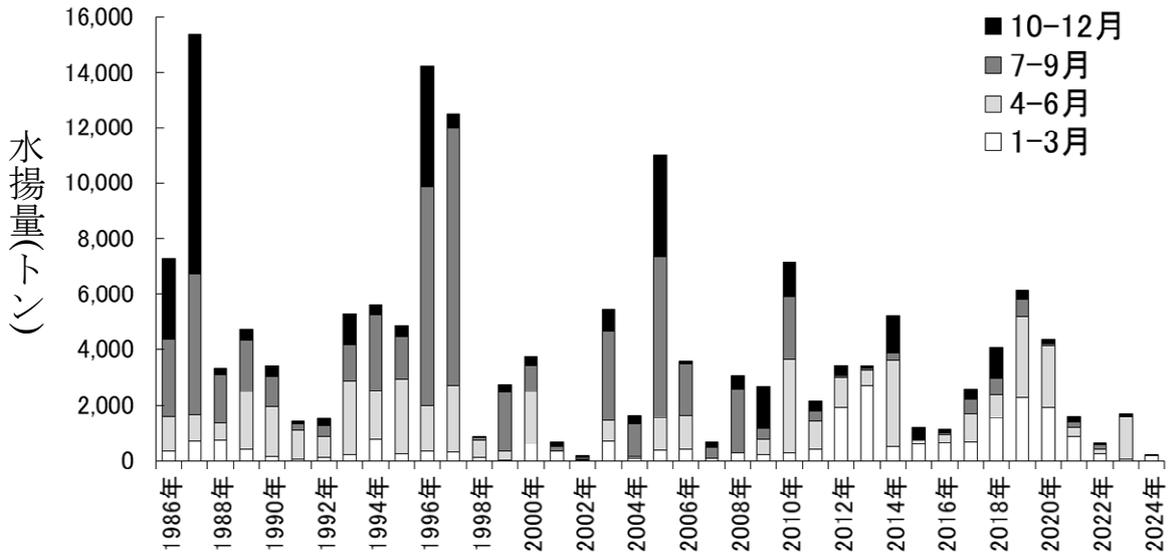


図9 まき網によるサバ類（マサバ・ゴマサバ）水揚量（鶴見・米水津・蒲江支店）

今後の見通し＜2024年8月～12月＞

来遊量:

豊後水道南部への来遊量は前年並でしょう。（2023年8～12月：118トン）

水揚対象年級群および体長:

期間中は尾叉長20cm～30cm前後のマサバ0～1歳魚が主体となるでしょう。

【説明】

2021年以降、豊後水道南部におけるサバ類の来遊は低調で推移しており、1月～6月のまき網水揚量は前年・平年を大きく下回っていることから、来遊水準は低調であった前年並と予測しました。

その他

■予測の根拠および参考資料

・予測は、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県による、「2024年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報会議」結果を基に、最新の情報を加味して行っています。

URL: <https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

■用語解説

- ①被鱗体長：体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域：ここでは3県（宮崎県・愛媛県・高知県）の海域とし、高知県の水揚量の前年比は、宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ③尾叉長：体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央（くびれている部分）までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 資源増殖チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6
電話:0972-32-2155
FAX:0972-32-2156